

## 今月の御教え

天地金乃神がお守りくださっていることを一番早く知るには、夏の土用に自分の腹を押さええてみよ。腹は冷たい。また、冬の寒中には、体の内へご陽気をお与え下さるので生きておられる。このようにお守りくださっている。四季に応じて昼夜の別なく、息のさし引きまでお守りくださるのである。

……「天地は語る」第二十三条……

## 解説

真夏に、汗だくになって働いていても、お腹に手を当ててみると冷たいことは自明のことですが、もしお腹などの内臓も手足と同じように体温が上がれば生きてゆくことは出来ないでしょう。酷暑の中でも腹は冷たく、厳寒の中でも内臓は体温が保たれ、又、意識しなくても昼夜の別なく息の差引が保たれている。この様な人知を超えた働きこそ天地の親神様の私達をお守り下さるお働きであり、その事に気付かせて頂く事が、『神のおかげに目覚める』ことと言えるでしょう。

立教百六十年の御年柄も後一か月、共々に信心の稽古に励まして頂きましたよう。